

## ○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

議長より許可をいただきました。一般質問を開始させていただきます。

合併して、新市、そして新市政になって、もう4年がたとうとしております。私も4年前当選させていただいてから、この壇上で質問しました。その言葉をちょっと使いたいんですけども、映画のセリフを1回目の質問で使いました。ビスコンティ監督の「山猫」という映画を使ってその中の一つのセリフ、「生き残るためには、自分自身が変わらなきゃいけない」と、こういう言葉を使って、この壇上で質問させていただきました。

武雄市はこの4年間でどう変わったのか。水道料金が変わりました。固定資産税が変わりました。医療が変わりました。介護保険料も変わりました。いろんな変化があります。もちろん、介護保険料とか固定資産税とか下がる方向、市民の望む方向に変わっております。そしてまた、私が10年以上前からお願いしている地域協働化交付金とか、そしてもっと前からお願いしていた定住促進補助事業、これも実現しております。いろんなことが実現して変わってきております。自分自身も変わらなきゃいけない、武雄市も変わらなきゃいけない。4年前のパブリックビューイングの実現もそうです。前は全然相手もされなかったことが、どんどん実現されております。武雄市は変わりつつあります。進行形であります。私自身もさらに勉強し、情報を集めて、チェック、提言機能を上げていかなきゃいけないというのは常々感じて頑張っていきたいと思っております。

ということで、本日は今までよりちょっと多い7項目を質問に出しております。1つ目は、住宅政策。これは地域の均衡ある発展、地域の人口減対策についての質問であります。2つ目は、観光対策。観光対策に関しては、鉄（てっ）ちゃん、知つとんさっですか。（発言する者あり）いえいえ。鉄ちゃんというのは、すみません、山崎議員さんのことじゃありません。鉄ちゃんというのは鉄道オタクのことですね。鉄子というのは、鉄道オタクの女性版ということであります。ちょっと空気が和んだでしょうか。そういうことで質問していきたいと思えますし、3つ目は、教育施設について。これはもう主にスポーツ施設についてなど、質問していきたいと思えます。

早速であります。1つ目の住宅政策について。

地域の人口減に憂慮して、十数年前より先ほど言いました定住促進補助事業、これはもう大変役立って、この制度により大きく地域のほうに貢献しております。さらに一歩前に行ってほしいというのが私の意見であります。ただ、私は若木です。若木から武雄に出るときに朝日町を通っていく。もちろん赤穂山トンネルを通っていくときもありますけれども、そのときにちょっと近道というか、黒尾のほうを通っていきます。細い道ですね。数年前に、2年ほど前ですかね、民間の分譲地ができていました。ああ、こういうところに分譲地ができていたんだと。で、次また通ったら基礎ができて、建物が建った、またその隣ができて。今ではほとんど埋まっているような、もういっぱい、ああ、ここが前のあの土地だっ

たのかというところでグーグルアースで見ました。（資料を示す）

グーグルアースってちょっと古いので、前の状態はどうなのか。ちょっと見にくいです。これは黒尾なんですね。ちょっと見にくい、ごめんなさい。見にくいです。ここは川上の交差点がこうあって、朝日小学校がこの辺になるんですかね。ここです、ここ田んぼですよ、今。田んぼになっているところです。田んぼとか畑です。今ここは住宅地ですよ、ほとんど埋まっていますね。これは以前の画像です。もうほとんど埋まって、あ、反対でした。（笑声）ちょっとは和んだでしょうか。（「はい、和んだ」と呼ぶ者あり）ここにある、これはハウスでした。失礼しました。ここは田んぼです。ここは今住宅地に変わっております。分譲住宅が始まって、最初はこういうところ、分譲をつくられて、どれぐらい人が入るのか、みんな興味津々だったと思いますけれども、全部ここがもう埋まっています。

もう1つ、これも4年前の1回目の質問で行ったやつです。これは塩田の市営分譲住宅、これだったんですね。全部埋まっています。これはひっくり返してませんよ。当初塩田町が計画されて、こういうところに本当に人がこんなにいっぱいいつくって入るんだろうかと心配されておりました。ところが、今こういう状況。ちょっと本当に見にくくてすみません。全部埋まっています。で、武雄市から27世帯が塩田に移ったと、こういう事実があります。やっぱり、いろんなことが考えられます。できるんだろうかというけど、実際につくったら全部埋まるんですね。

そういうことを、例えば、PTA活動でいろんな話をしていると、「そういうのがあったらいいな」、武雄町に住んでいる人と、「そういうのがあったらいいな」と、いろいろ話を聞きます。もう本当にあれよあれよという間に埋まっていく現状を、今現在、そして過去も目にしております。

この安い分譲住宅、塩田のほうは話でちょっと確かじゃないかもしれませんが、大体普通平均坪12万円なのが町営でやっているから6万円以下だったと、安い。今車があるし、道路がきちんとできているからどんどん埋まっちゃうというふうな現実。本当にいろんな、「そういうのがあったらいいな」という声をいっぱい聞きます。常にそういうリーズナブルな土地が物すごく出ていると。でも町は、安く売ってもそこに家を建ててもらったら固定資産税が入ってくるんですね。いろんな考え方があります。

定住促進補助事業は、本当にいい政策ですので、もう1つ前に行っていただいて、こういうふうな分譲地を、人口減で本当に困っているところ——地域は本当に人口が減って困っています。そういう地域の声を、地域の叫びをぜひ何とか聞いていただいて、人口減対策、これはもう真綿で首を絞められているような感じの進行ぐあいです。ぜひ、行政としてもそういうふうな地域住宅政策、どのように施策を考えていらっしゃるのか、これをまず最初にお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

私の答弁書には、「分譲地開発について市が取り組むことは考えていない」と書いてあったからどきっとしたんですけれども、さはさにあらず、私としては、例えば黒尾の分譲地のことを聞いたときに、黒尾という地名じゃなくて、あの辺やったら住んでもいいなという需要があったそうです。そして黒尾の場合はあの当時、今はちょっと地価も上昇していますけれども、非常に安かったといったこと。あるいは黒尾の人はみんないい人なのかどうかはちょっと別にしても、その当時の開発の担当者から言われたのは非常に人がいいということも聞き及んでおります。

そうしたときに、では、若木町に、例えば小学校の近くになろうかと思えますけれども適地があって、そこがもし埋まると、埋まる見込みがあるということになった場合には、私は、市は率先して先にこれは投資をして、後で、先ほど議員がおっしゃったように固定資産税等でまたこう入ってきますのでありますけれども、若木に住みたいというのは、外からの人です。若木はいいところ、みんなよか人です——果たして、そういう需要が本当にあるかどうかというのは、これは調査をきちんとやっぴりする必要があるんだろうなということを思っています。分譲地だけつくって、そこがまたペンペン草が生えるということになると、かえって市民負担の増につながりますので、その部分というのが、まだ私自身が自信を持ち得ていない状況にあります。それがもし何世帯か、いや若木に住んでもいいよということであれば、これは私は分譲地について補助金を企画して、議会に御提案をすべきだというふうに思っています。ありますか、需要は。

〔25番「次で話したいと思います」〕

はい、じゃあこの辺にさせていただきます。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

御指名でございますので。先ほどいった答弁書にはないという、全くその、例えば当時、塩田町とか計画されたときとか、そういう話だったんですね。ふたをあけてみるとどうなのか——やっぱり需要が多い。そして今、空き家バンクとかなんとかということで、空き家をいっぱい登録して、そこに借りたいという人がいらっしゃったらそれを紹介すると。それがいっぱい来ているんですね、空き家を借りたいと。

もう1つは、例えば私の家の前、家が2軒新築というカリフォーム住宅、もう住宅として土地ごと売り出されています。2軒、今もう1軒が作り直されている。そこも売れたのか

な——そこもすぐ売れました。

先ほど言ったように、「住みたい、空き家はないですか」というところが多いんですね。探しても今のところないと。これはいろいろ問題があるんですよ。空き家はいっぱいあるんですよ。あるけど、例えばふだん使っていない、よそに住んでいるけど仏さんを置いているとか、盆、正月に帰ってきてお参りするのでも仏さんを置いているとか、いろんなあれでそういうふうな貸すというのが少ないみたいです。ですから、そういう需要はあると思います。

先ほど言いました塩田町の例、いろんな他の事例も出していいんですけども、当初、本当に需要があるのだろうかといったところで、需要は想像以上、くじを引かなきゃいけないぐらいあるということも多々あります。ただ、それはさっき言ったように、普通の金額ではなかなかできない。ぜひ、これから市も先ほど市長がおっしゃったように、逆の市民負担になっちゃいけないんで、ぜひ調査をして、例えばそういうふうな空き家バンクを何人ぐらい借りたいと思いますかとか、どれぐらいあるかというのを調査してやっていただきたいと思いますけれども、その辺のところを聞いて市長いかが思われるでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとこれは選挙前でなかなか答弁がしづらかとですけども、それを前提に御答弁申し上げますと、これはきちんと調査をします。ですので、実際空き屋の場合は、家は建てんでよかわけですよね。ですが、分譲の場合は、場合によっては我々が造成をして、そこに建てる場合だと、ちょっと資金面とかいろんな差が出てまいりますので、いずれにしても今、定住促進特区である若木町、西川登町、それともう1つ武内町について、包括的に1回調査をしてみたいと思います。その上で適地も問題になりますので、それも含めていろんな調査を、意向調査と適地調査をしていきたいと思えます。

ぜひ、市民の皆様方で畑、田んぼ、荒れ放題で、そいなければ市民のためにとということであれば、このお話も政策部なり、まちづくり部におっしゃっていただくと、それが翻っては市民負担の軽減にもつながりますので、ぜひそういった意味での所有者の皆様方のお力添えといたら僭越になりますけれども、もしそういう御意向があれば、ぜひまた教えていただきたいというふうに思えます。調査はきちんとして、半年間ぐらいかけてきちんと調査をしたいというふうに思えます。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ニーズはあると思います。繰り返しになりますけれども、真綿で絞められるような人口減、

気づいたときには子どもが少ない、限界集落というのは目の前。限界集落を超えたらどうなるか。地域の保全ができなくなります。自然の保全ができなくなります。ぜひ、こういう機会に住宅政策を強く強く見直してやっていくことも市長の務めだと思いますので、そして周辺部のこれが叫びです。ぜひ、実現していただけるよう切にお願い申し上げて、次の質問でちょっと和やかにしようかなと思います。

次の質問、観光対策です。

観光対策ではありますけれども、いろんな観光対策が考えられます。いろいろ私も提言している取り上げていただきました。この武雄市、「がばいばあちゃん」、いろんな面でPRできて、知名度が上がって、観光の減り方がよその観光地よりも少ないと。ぜひそれを伸ばしていただきたい、何かないのかと。ランタン祭りの例も出しました、こういうのをどうかと。いろんな話を出しました。で、きょうは先ほど、鉄ちゃんの話をしました。

こい、知っとなさっでしょうか。（資料を示す）（「トーマス」と呼ぶ者あり）これは御存じですか。こっちはあんまり知らっさんですね。知っとなさっですか。（発言する者あり）失礼しました。これは機関車トーマスです、今の子どもが必ず通り抜けますね。何でこれを出したのか。これはトーマス社という会社があるわけですね。トーマス社は各国に1路線ずつこれを走らせる許可を持っている、1路線ずつ。日本にはまだありません、申請しているところが。僕、これは何で思ったかですね。物産まつりのとき、うちは酒屋ですから店を出していました。そのときにブルートレイン、（「そうそう」と呼ぶ者あり）もうカメラを下げた人が「試飲ください」とかいっぱい来られるんですね。ほとんどカメラを下げた人。多かったです。（「多かった」と呼ぶ者あり）はい。これはもう鉄ちゃんばかにできんなど、すばらしいですね。もう本当に物すごい、鉄道のマニアはすごいなと思いましたし、これはさっき言ったように必ず一度は子どもは通り抜ける。これからポケモンに行くんですね。

やっぱりこういうふうな、例えば、今考えられるのがハウステンボス。H I Sが救済しようというふうな形で何百億か出している話がありますね。佐世保市も力を入れたいと。例えば、武雄－ハウステンボス線を走らせる。費用はさっき言ったハウステンボス、あと各自治体も見ていただく、そしてJRも見ていただく。これは来ますよ、来ます。で、さっき言ったように各国に1路線しか許可を出さない。早う手挙げた人が勝ちです。だからこれを、何というんですか、僕はたまたまこれ知人から聞いて当たったんですが、いろんな考え方ができますね。きょう提案しているのがこういう考え方もあるよ、これもいいよと。

このトーマス、トーマスは私の時代にはありませんでした。でも、こう聞いたら今の20代、30代前ぐらいまでは、もうほとんど知っている。やっぱりマニアも結構来るということで、これは武雄－ハウステンボス間でH I Sも乗ってくるんじゃないかと。ハウステンボスも乗ってくる、そして佐世保市も乗ってくるんじゃないかと。

さらに私の願い、こうなったらいいなという願いですけども、武雄－ハウステンボス間

じゃなくて、できれば県の長崎新幹線で鹿島市のほうに何とかしなきゃいけない、鹿島まで延ばしていただきたいんですよね。というのは、杵藤地区で1つだということをこれでやっていただければ、「優しか」と呼ぶ者あり）将来、例えば民主党政権さんになっていろんな話を聞きます。自治体合併して、さらに進むんじゃないかと。そういうときに、そこからもう計画を一緒に始めましょうと。海から武雄を通り、ハウステンボス、こういう考え方で将来計画を見据えてやっていただければいいのではないかと。ちょっと「何や、トーマスや」というふうな感じですけども、これも一つの作戦だと思います。市長の御見解、執行部の御見解をお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

実は、さきの物産まつりのときは、「ゆふいんの森号」を引っ張ってこようということで、由布市由布院の観光協会並びにJR九州とはかなり話がいいところまでいっておりました。いろんな運行上の関係でそれが厳しくなって、うちの営業部の観光課の古田君が、いろんな人的ネットワークを使ってブルートレインを呼んできた。ブルートレインで来っとかねと思っていたらぞんぞんこでしたね。本当に沿線も、もう人がわーっておられて、鉄ちゃん、非鉄ちゃんもいっぱいおられましたし、確におっしゃったようにそのブルートレインを見に武雄温泉駅はもういっぱいいっぱいだったんですね。ちょっとおっちゃくつとやなかぐらいかというぐらいにいっぱいおったとですね。（発言する者あり）すみません。

そしたら何を申し上げたいかという、そのトーマスとなると、恐らくそのブルートレインの何百倍ぐらいの威力がありますので、ちょっとこっそり、どこに申請すぎよかか教えていただいて、もう「はい」て手ば挙げます。はい、もう申請します。申請をして、そして先ほどあったようにこれは単に武雄市にとどまらず、やはり佐世保市とも割合関係が深うございます。佐世保市であったりとか、あるいは鹿島市さんとも仲よくしていきたいと思っていますので、トーマスが取り持つ縁として、ぜひそれを一つのきっかけとして、やっぱり広域的な地域浮揚につなげていくということをぜひ、この取り組みそのもの自体でも多分これは注目を集めると思うんですよね。ですので、トーマス期成会をつくって、議員の皆さん全員にも入っていただいて、請願をしていただいたりとか要望する。これは子どもたちが絶対喜ぶと思うんですよ。ですので、夢をつなぐという意味でも、これはぜひ取り組んでまいりたいというふうに思っておりますので、ぜひまたいろんなことで教えていただければありがたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

力強いお言葉で、こういう提言ですね、提言して実現すれば本当にうれしいです。それに、さらにそれが成功すればもっとうれしい。

これを何で私紹介したかというのと、例えば、物産まつりというのは1日の効果でしかありません。モーターショーも1日の効果でしかありません。トーマス、365日の効果があります。（発言する者あり）子ども、保育所、保育園、たまに平日休むことができ、トーマス乗りに行こうねて平日に来られる方も多いと思います。そしたら、武雄温泉に泊まって、じゃあハウステンボス行こうかと。やっぱり観光業を温めて力強くする、そして旅館業を力強くするには、平日にいかに来させるかというのは大変重要な問題と思っています。ぜひこういうふうな——私は今、私が考えられる一つの提案を行いましたけれども、そういうのをぜひいろんなことを取り上げて観光業の収益アップ。

あとちょっと考えられるのが、最近何というんですか、話題といますか、はやっているパワースポット。明治神宮の中に石があると。朝何百人も並ぶと、何するか。携帯で画像を撮ってそれを待ち受け画面にしているとパワーが宿ると、それで何百人。それで、武雄にパワースポットあるかというので検索しました。武雄神社さん、物すごく載っていますね。これは、今後の観光にも使えると思います。使えるという言葉は申しわけないんですけども、武雄はいろんなところがあるみたいですよ。例えば、永野の風穴だって一つのパワースポット。いろんな——あ、失礼、大楠なんて、もうその最たるパワースポットなんですよ。ぜひそういうのも利用していただきたいんですけども、答弁は。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

私から見れば牟田議員そのものがパワースポットのような気がしますけれども、実は「クレア」、これは非常に人気の高い、特に女性の20代以上の方、まあ50代の方々も読まれるその今月の「クレア」に、まだ私は拝見しておりませんが、武雄の大楠が載っていると。これは何で載っているかというのと、「がばいばあちゃん」じゃありません。全国のパワースポットの一つとして載っていると。私はその現物を見ていないので、まだどうこうは言えないんですけども、その「クレア」を持って、もう来とんさっらかとですよ、実際。そいぎどうやって来たかというたら、もうかなり有名からしかです、そのパワースポットの愛好家の方々も。あとパワースポットと言えば、私聞いてみました。「これからどこ行くですか」て聞いたら「黒髪山に行きます」と。黒髪山の乳待坊周辺もパワーを感じるということ。それともう1つ、若木の大楠ですね。そしたら、「永野の風穴で知っとうですか」て聞いたですもんね、3人ぐらいに。「知らん」て言いんさったですもんね。ですので、そういう今度は風穴を、私もこれはパワースポットの一つだと思っておりますので、ぜひこの整備をきちんとして、やっぱり武雄っていうのはパワースポットがたくさんあるというのが、これは観光資

源になるのかなというぐらいの勢いで今お見えになられていますので、そういうPRと整備をきちんとしてまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

武雄全体がパワースポットになればいいですね。旅行会社でも「パワースポットめぐり」というのが激増。これに乗らないというかですね、こういうのは神秘的なものですから、そう広くPRとかなんとかするものじゃないかもしれませんが、物すごくおもしろいです。

これがびっくりすることに、年配の方よりも若い方中心に動いているらしいです。ですから、そういうのもぜひ取り上げて、例えば観光でお客さんが来る、旅館に泊まる。旅館に泊まる数がふえたら、そこにトイレトペーパーを納入する、はしを納入する、何かを納入する業者さんでも売上げがふえるわけですね。市内業者さんも、ぜひ何とか、私、ちょっとつたない頭で今2つ紹介しましたけれども、いろんなことが考えられると思います。ぜひこういうのもいろいろ考えていただいて、観光の浮揚につなげていただければと思います。

続きまして、3番目の教育。

教育に関しては通告どおり1点、スポーツ施設。私、昔剣道をやっていました。高校まで剣道をやっていて、その後、学生時代にラグビークラブにちょっと入って、そして卒業してからは特にやっておりません。だから、スポーツ施設にはなかなか訪れる機会が少なかったんですけれども、例えばこの歳になって少年野球とか、いろんなの、「相撲」と呼ぶ者あり）相撲はやっていません。今声がちょっと聞こえたような、柔道もやっておりません。スポーツ施設の物を物すごく言われるんですね。ちょうど我々の年代が監督とかコーチとか、いろんなことをする年代に当たって、やっぱり武雄のスポーツ施設、これも前回の質問で言いました、貧弱だと、なかなか大会も連れてこられないし、引っ張ってもこれない。それはある程度はできると思いますけれども、そういう中で全面的な建て直しというのを、これはもう前回の質問と一緒に。全体的な建て直しになると物すごくお金がかかると。じゃあどうするのかと。

前回、薩摩川内市の例をとって言いました。薩摩川内市、駅からおりて車で20分ぐらい行ったところに物すごい施設があるんですね。一緒に行った議員もいらっしやるんじゃないですかね、物すごかったですよね。プロ野球もキャンプに来る、サッカー、Jリーグも来ていましたね。それも複数来ていました。そういう施設があれば、この武雄市からもいろんな選手が育っていくかもしれないし、いろんな大会を誘致できるかもしれない。ただ、その原資はどうするのか。「つくってください」「つくってください」とか言うのは簡単なんですよ、



「つくって」って。お金はどうするのか。問題は、何でもそうですけど、お金がそうですよね。「つくって」と言うのは簡単です。「車が欲しい欲しい」と、じゃあお金はどうするのかと。例えば一つの方策でということでした。

今ある白岩球場とかなんとかというのは、あそこは市内の超一等地です。超一等地。鹿島の蟻尾山、離れてつくってらっしゃいますけど、市民はそこで物すごく喜んでいて。例えばその一等商業地、一等住宅地、あそこをもし売却とか何かできて、そのお金でもっとすばらしいところがないものかと。

そりゃ今は厳しいですよ、リーマンショックとかで景気が悪いですから。景気が上向いてきたら、やっぱりそういう方策も頭の中に入れとかなきゃいけないじゃないかと。本来ならば、町の中にもっとすごいのあるというのが一番いいですけども、原資をつくるためにはどうすればいいのかというのをやっぱり考えて提案しなきゃいけないと思いましたが。あそこを売ったら何十億、売れたら話ですよ、何十億。ちょっと今道路がどんどんよくなってきています。そういうふうな、民主党政権になって、仕分けで地方の道路がどうなるかちょっと心配になってくるんですけど、やっぱりそういうふうな——言いました、大会も呼べる、そして地域の人たちもそのスポーツで楽しめ、その中からいろんな大会に、外に出る選手が出てくる、そういうふうな夢を持ったスポーツ施設をぜひつくっていただきたいですし、それを実現するためにそういう方策があるとは思いますが、そういうことを一部考慮して、これから——さっき言いました、今は無理です、不況ですから——そういうことも考えられないのか、お伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

今、御提案の内容につきましては、非常に大きい、そして将来を見据えた計画ということが非常に大事になるかというふうに思っています。ただ、今私たちが預かっておりますスポーツ施設、御存じのように佐賀国体を開催するに当たってつくって、もう既に35年程度かかって、非常に維持費等にお金がかかっているというのは御案内のとおりでございます。そういう状況の中で、やっぱり今後この移転が可能なのかどうか。それは施設ばかりじゃなくて、今議員が言われるようにいろんなもの、観光とか将来のスポーツ人口とか、そういうものを含めて今後検討をさせていただければ幸いかというふうに思っております。よろしくお願いたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

とってもいい案をいただいたと思っています。ちょっと悩ましいのは、昭和50年から51年

にかけて建てて、耐用年数が、先ほど浦郷部長からありましたように、もう建てかえるのか、改修を進めていくかというところでもありますので、ここは心機一転、もしあの場所が売れるというふうになった場合は、それを財源として、また新たな適地を探すということはあろうかと思えます。

そして、このごろ移動で少し徒歩を使うようになったんですけれども、そのときに、あの辺永島とか花島を歩いていると、大体前に東建の方がいらっしゃって、私がいて、後ろを見たらまた東建の方がいらっしゃって、3人でこう歩いている構図があって、結構あの地区というのは議員が御指摘のように、どういう目的であるかわかりません、わかりませんけれども、非常に需要圧力が、あるいは供給圧力と言いかえてもいいかもしれませんが、あるなあということは思っていますので、あとそこを何にするかということは、単に民間の方々から意見を寄せてくださいじゃなくて、私たちの中でも内々、いやここはこういうふうに使いますよというアイデアプランが必要なのかなというふうに思っていますので、またぜひお知恵をおかしていただければありがたいと思います。

そして、もし建てかえるときに、次の新しい適地がどこかなど、それはどこでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

それを探するのが執行部の仕事であります。これはどこだっというの私もわからないんですけれども、できるだけやっぱり人口が多い中心部からそうひどく遠くない、さっき言いました薩摩川内市というのは車で20分ほど、車で15分圏内ぐらい、10分圏内かどれぐらいかわかりませんが、あと、いろんな災害が来にくいところとか、最低条件は一番、土地が安く造成できる場所です。上物にお金かけなきゃいけないですから。やっぱりスポーツ施設をどこかつくろうと言って、例えば今白岩を買うと物すごい金額が土地代で飛んでいきます。だから、どこか新議員たちの、今度新しい、ここの議会の席も大分変わりますので、そういう意見とか執行部の皆さん方の意見とかで、そういうのをさっき言いました、今リーマンショックで不況だから売っても安いと思います。だから、そういうの見据えながら、好景気とちょうど重なったときにやっていただければなというふうなことをお願いしております。ぜひ、そういうのを頭の隅に入れて、テレビのルーキーズというのがありましたね。ルーキーズでセリフが、「夢にときめけ、明日にきらめけ」だったですね。子どもたちにぜひ夢が与えられるようなぜひ施設をつくっていただきたいというふうに思います。

では、4番目。4番目は農業政策であります。

農業政策、これも全般的なものではありません。一つに区切っていきます。イノシシ対策、これはいろんな、例えば、議会報告会とかしてよく言われたのがイノシシです。イノシシというのはいつまでもいろいろ言われるわけですね。やっぱりそういうふうなことで何と

かしていただきたいということで、ずっとお願いをしておりました。去年は、土手がイノシシによって崩されているところを、水が流れるんじゃないかということで見せていただきましたし、雨がひどく降ったら、去年大雨が降ったときにイノシシが掘っていなければもっと災害が軽度で済んだんじゃないかということも多々多々ありました。これから雨期を迎えます。雨期を迎えると、やっぱりイノシシがちょっとやっちゃったところを、やっちゃったと言っちゃいかんですね、いたずらしたところを、そこからまた災害がひどくならないようにぜひやっていただきたい。

そして何よりも、農作物をつくっている人たちの耕作意欲を失わせないようにしなきゃいけない。ちょうど前回といいますか、古川議員さんが松浦川の話をされました。ここの議会でも言いましたけど、松浦川の土地だけ買収して横は草ぼうぼうだったと、この議場で言いました。そのとき何を言ったかということ、そこがイノシシの巣になる、そこがスズメの巣になる。買収したところの横の田んぼの人は、まじめにつくっているけど、そこからのスズメで食われる、そこからのイノシシで荒らされる。耕作意欲がなくなるんじゃないかというのをこの壇上で言いました。同じように、何とかイノシシ対策をぜひやっていただきたいんですけども、なかなか難しい。3万何千頭が今武雄に推測されるということですけども、もうあれから半年たっていますので、3万5,000頭を超えたんじゃないか。

そういう中で、いつも言っていますけど、電牧を張る。電牧事業はもう、十分その事業を知っておりますのであれですが、電牧を張るというのはあくまでその田んぼを守ることで、イノシシを減らすことはできないんですね。わなも限りがあります。ここの壇上で言いました、こういうことができないかと。毒えさというのはもう生態系を狂わすから置けないということになっています。でも、動物用避妊薬をして、生む数を減らしていくというのはできないだろうかと、これをお伺いしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

前田営業部長

**○前田営業部長〔登壇〕**

まず、イノシシの捕獲ですが、議会で何回となく言っていますが、20年度が一番多くて1,500頭ぐらい、4月からいわゆる10月の駆除期間ですね、とれていまして、ことしは4月5月が県の一斉駆除、それからそれ以降は7月から10月までの駆除期間、合わせましても500頭ちょっとぐらいで、これについては、1年越しに波がありまして、ちょうどことしが少ないせいもありますが、3分の1ぐらいの捕獲です。ただ、被害の状況についてはあちこちから連絡いただいております、イノシシ課が対応しています。そういうことで先ほどの避妊薬の件でございますけれども、うちのほうでもあちこち情報の収集はしていますが、なかなかこれというのがないわけですよ。これについては生態系の問題等もございまして、今後もう少し調査研究をさせていただきたいというふうに考えます。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

イノシシというのは武雄の頭が痛い部分であり、今後イノシシ肉ということで期待するものでもあります。ぜひイノシシ対策というのに今後力をさらに入れていただきたい。やっぱりイノシシ被害で困るのは周辺部だけではありません。蒲地議員さんやったですか、ゆめタウンの中にも入ってきたという話をされて、びっくり（発言する者あり）という話もありました。これは、やっぱり車がぶつかるんですね。車がぶつかって車で事故を起こすとか、そういうのがやっぱり怖いんですね。ぜひいろんな対策をやっていただきたいし、先ほど答弁されたように調査研究を進めて、その数を減らすようにやっていただきたいと思います。

では5番目、防災。ここは3つの項目があります。1つは火災災害で消防団、もう1つは交通災害、この2つについて通告どおり質問したいと思います。

1つ目の消防団、消防団はいつも頑張っております。1日、15日の点検日、そして出初め式、夏季訓練、いろんなことで出動していますし、そして何よりも本当の火災、水害、いろんな場面で活躍されています。ただ、いろんな諸問題もございます。先ほど言いました人口減という言葉をこの壇上の上で言いました。消防団員の確保というのは本当に大変です。いっぱい人口がいる、「消防団に入らない」、「入ってくれない」、「いや、今ちょっとのう」と。「消防団入らない」、「ちょっとのう」と。いるところはいいんですね。本当にいないところがあるんですよ、やっぱり。自分の子どもが二十歳になるまで次がないとか、本当にいないところ、本当に少ないところがいっぱいあります。

消防団員の確保、これはずっと定数は変わっておりません。ただ、人口は激減していると。定数はあんまり変わっていない、人口は激減している。さらに、その若い人の数が減っている。そういう中での消防団員の確保というのは、本当に今の消防団員にとっての悩みの種です。私自身も消防団ですので、人の確保というのは本当に大変なものであります。

そういう中で、今、特別団員制度というのがありますね。特別団員だったですか、（「支援団員」と呼ぶ者あり）支援団員だ。失礼しました、支援団員制度。これは50人までが支援団員と認められる。ただしそれは、武雄市全体で50人ということでもあります。できれば各地区で何人ぐらいまでは支援団員として認められるよと、そういうふうな方策をとってもらえないもんか。いるのに入らないじゃないんですよ、本当にいないから次が入れない。本当に火災があったときどうするのか。切実な問題であります。

例えば、もう40歳後半、もうそろそろ仕事も責任持たされてきた、なかなか出れない。次を入れなきゃいけない、でもなかなかいない。いるのに入らないじゃない、本当にいない。そういうのを何とかして、消防団は本当に悩んでいますね。私は一団員ですから本当にそういう声をよく聞きます。町で支援団員が、市で50名じゃなくて、各町の何割まで認めます。

そういう方は、例えば消防団を卒業されたOB、地元に残っているOBを優先してそういうのになるとか、そのかわり例えば1日、15日の点検は免除しますよとか、各種式典は免除しますよとか、そのかわり退職金はありませんけれども、出動手当、保険はちゃんとしますよと、その程度でして、何とか消防団の本当に困っているのを多分半分わかられているんじゃないですかね、こういう実情を。ぜひそういうことができないものか、これをお伺いします。すぐには言いません、本当に困っている地区からいろんな話を聞いて、これはもう本当に必要だと思ったらやっていただく、そういうことができないものかというようなことを、これから調査、そして実行できないものかというのをお伺いしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

大庭政策部長

**○大庭政策部長**

消防団につきましては、合併時に定数1,470ということで現在まで至っております。現在は実団員が1,360で、今回新しく支援団員制度を取り入れまして現在定数50ということで、それでも1,410と定数には60名不足をしております。議員おっしゃるように、特に周辺部において団員確保というのに非常に苦勞されているということは分団長会議等々でも十分お聞きをしております。

この支援団員制度をどうするかということで、一応規則で50としております。この中で今言われるような地域割り振りをどうするかということも一つの方法でございますし、定数にまだ十分満たっていないということもございますので、この支援団員の定数といたしますか、その部分をもう少しふやすという中で、今おっしゃるように地域の実態に合わせたような決め方をしていくと。そういったことも今後検討していく必要があろうというふうに思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

25番牟田議員

**○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕**

今の大庭政策部長の目は、きらりと光っておりました。ぜひやっていただけるものと、今確信いたしました。

本当に地域は困っています。これは先ほど周辺部という声がありましたけれども、上田議員も消防団ですよね。やっぱり町の中でも困っているという状況がいっぱいあるらしいです。（発言する者あり）はい、そういう状況らしいです。本当に困っているんですね。ですから、ぜひ消防団のそういう声を、先ほど言いました大庭部長、多分今の顔やっていただけるような気がいたします。ぜひやっていただきたいと思います。支援団員を各町に振り分けて、その地域活動を任せるといってお願いしたいと思います。

では、2つ目の交通災害。

交通災害ですけれども、例えば若木町、先日498号線で人身事故があり、本当に不幸にもお亡くなりになりました。その498号線なんですけれども、今どんどん計画が進んでおります。計画どおりいけば、数年後にはもうできると。途中までできて、そこから一般道のももとの498号線に戻るんですね。そういうときに交通量がふえる。交通量がふえたら、今の現道では耐え切れないじゃないかと。工業団地があります、工業団地の出口は何度も何度もここでお願いしています信号機ありません、横断歩道ありません。若木の大体中心になります交差点、樋渡石油さんがあるところの交差点ですけれども、その近くから朝日町まで横断歩道がないわけですね、何キロにもわたって。民家もある、田畑もある。みんな普通のところを渡っている。今後、痛ましいこういう交通事故が起きないように、要所に、さらに前回ここでお願いしました交通災害が起きないように、そういう横断歩道、もしくは、できれば信号をつけていただきたい。そして現道の整備、これをさらに強く国、県のほうにお願いしてもらいたいというのが1つ目。

2つ目は防災の面なんですけれども、武雄北中と若木町を結ぶ線、若木のゴルフ場に行くときに峠があります。峠があって、北中の子どもたちはそこを通過して帰ります。ただし、その通るといのは、峠がこの辺に見えて、下を、真っ暗なところを通るんです。電灯があるんですけど。そこでもし何かあったら怖いと。そしてその峠はよく事故があっている。498号線が今進んでいます。498号線が進んでいる状況で、土羽でいきます。ぜひそのところを取り除いて、土羽のほうに持っていけば、最小限の費用でできるのではないかと。高さをそろえて低くして事故も少なく、そして子どもたちの安心・安全につながるように、これは、子どもたちを持つ親の願いであります。昔から言われていましたけれども、そういう機会がない。あそこは完全に改修していると、その泥、土捨て場とかなんとかとなりますから、ちょうど今この機会を逃したらなかなかできないと思う。事故を減らす、そして子どもたちの安心・安全を確保する、この2点でお願いしたいのですけれども、いかがでしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

大庭政策部長

**○大庭政策部長〔登壇〕**

私のほうからは信号機の設置の件について御答弁させていただきます。

議員おっしゃる、その工業団地の入り口につきましては、私ももともと若木でございまして、特に工業団地側から来て498号線に出る、そのときが非常に見にくいなということで思っているところでございます。ここにつきましては、これまでも若木町のほうから要望を受けまして、若木町交通安全協会会長等からの要望を受けまして、まず平成20年7月11日付で警察署長に要望書を提出しております。それでもまだ全然つかないというようなことで、去る2月10日付で再度武雄警察署長あてに要望書を提出しております。

そのときは、まず従来からあっています信号機の設置について再度強く要望したいという

ことと、あわせて、まず信号機をつけない場合は、早急な対応として優先的に横断歩道の設置についても検討していただきたいというようなことで、この2つあわせて要望しているところでございますし、今後もこの要望の実現に向けて努力してまいりたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

議員御指摘の北中に行く通学路ですね、あそこは確かに歩道と車道の段差がございます。その段差につきましては、今現在の498号線の盛り土部分ですね、盛り土部分にその泥を持って行ってという形での計画をしております。ですから、新年度にまず測量設計に入りたいということで今計画をしております。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

うれしい言葉を聞きました。私もきょう初めて聞いたんですけれども、設計測量がもうできると、こんなうれしいことはありません。本当に保護者を代表——代表していないんですけれども、ありがとうございます。もうこの言葉だけでうれしかったです。ぜひ地域の安心・安全、交通災害、防災、そしていろんなことから地域を守る消防団、皆様方の力を、もっと力を与えていただいて、地域も頑張っていけると思います。よろしくお願いします。

では6つ目、管財について。

管財についてというのは、我々議員は決算委員会というところに入ります。最近は何も質問していなかったけど、ずっと昔、「この建物の保険はどうなっているんですか」と聞いたことがあります。「車の保険どうなっていますか」と。車は、例えば入札してこう入れられる。いろんな例ありますね。どういうふうになっているのかというのを聞いたことがあります。もう10年以上前ですけれども、そのときに僕が聞いたのが、全国何とか協会のやつに入っています、全国自治協会の保険に入っていますとかという答えでした。そのときに、へえ、そうなんだと。「じゃあ、普通の民間のやつじゃないんですか」、「いや、それよりもずっと安いからこっちにしております」、ああ、そうなんだで終わっちゃいました。

今、景気が悪いです。景気が悪い中、武雄市内にも数十社の保険会社があります。そういう中で、この建物保険、一般建物、市営住宅、公用車、こういう保険、どのようにされているのか。私が聞いたところ、見積もりを出してくれというのは一回も言われたことない。ずうっとこの全国市有物件災害共済会、全国自治協会、全国公営住宅火災共済機構とか全部東京都のやつばかりですよ。例えば、見積もりをとって1割ぐらいいか違わなきゃ、地元におろしたほうがやっぱり経済は回りますよ。例えば、保険というのはいろんなグレーゾ

ーンというのがあります。これは保険でするかなんかという。そういうときにやっぱり地元だと協力していただけますし、あ、武雄市は、武雄市役所はそういう全国のあれじゃなくて地元に出していただけたんだと。さっき言いました市内に数十社ある、やっぱりそれだけでも違うと思います。ただ、それは見積もりとってみなきゃわからないですね。

1つ目の質問、この管財にとっての1つ目の質問、過去こういうので見積もりをとったことがあるのか、これをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

簡潔にお答えしますけれども、過去見積もりをとったということは、これまでに聞いておりません。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

あわせて、さっき言いました1,000万円ぐらいですよ、例えばさっき言ったように、1割ぐらいしか違わなかったら地元におろす、経済がこういう御時世ですから地元におろすというのも1つの手だと思います。3割も4割も高かったら別ですけども、やっぱりこういうときに地元、多分武雄市以外は全部これだと思います。武雄市は率先して地域のことでやるというふうに、ぜひやっていただきたいと思います。いかがでしょうか。やっぱり見積もりをとって比べていくというのをお願いしたいんですけども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

この保険につきましては、議員おっしゃいますように市営住宅を除く建物、それから市営住宅、公用車というようなことで保険を掛けているわけですが、議員おっしゃるように民間の保険会社の機動力とか、すぐに対応できるというような利点等々考えられますので、これについては議員おっしゃるように見積もりをとりながら、一番いい方法で契約をしていくということも今後検討してみたいというように思います。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

たったたと6個いきましたね。ぜひ今まで見積もりをとらなかったほうがやっぱり不思議



議ですよ。結局見積もりをとってもこっちのほうが安かったとなるかもしれない。でも、やっぱりきちんと見積もりをとって、ああ武雄は、よその市とは違うんだ、改革しているんだというところをぜひ見せていただきたいと思います。

では7番目、福祉行政についてであります。

これは、通告に出していましたが分なんですけれども、これは黒岩議員が質問された折に、ワンマンバスではなくて、みんなのバスということで市長から答弁がありましたので、半分同じようなものです。というのは、うちの地元とかでバスが回ってくると。日輪荘とかいろんな福祉関係だとか。でも主要道路までしか来ないんですね。じゃあ、山間地のちょっと道が細いところの人は、おじいちゃん、おばあちゃんをそこまで送らなきゃいけない。送って、そのバスに乗ってもらって行っていただいて、帰るときはまた迎えに来なきゃいけない。そういうのが物すごく多いんですね。そういう中で、先ほどおっしゃいましたみんなのバス制度をやっていただけるといのは、本当にありがたいことだと思う。これはもう黒岩議員との質問が重複するので、ぜひやっていただきたい。

さらに進んで、今度、新武雄病院ができます。例えば、病院まで行く、地域の人たちが病院まで行く足、ゆめタウンまで行く足、そういうのにも使えるのかどうか、それを質問の1点目。

そして、さらに地域の方がもっと望んでいる、これは若木だけではないと思います。武内町も川登町もいろんなところが望んでいると思います、それをスクールバスみたいに運用できないか。みんなのバスが本当の意味で市民のためのバス、みんなのバスにできないものか、これは本当に市民が望んでいるものだと思いますので、市長、市民の声をぜひ受け取っていただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

昨日、黒岩議員に対する答弁として、ワンマンバスからみんなのバスということを申し上げたら物すごい反響でした。今までの私の一般質問の中で最も地区の皆様方が喜ばれた、きのう牟田議員と一緒に百堂原のところに行った帰りにも言われました。非常にうれしく思いました。

その中で、まだこれから詳細な制度設計に入りますけれども、今のところの方向性といましては、基本的に油代。油代については、一定上限をつけてお渡ししようと思っているんですね。ですので、例えば若木の本部から新武雄病院に行きますといったときは、それはオーケーだと思います。ですので、油分で足りない分は、地区の皆さんたちで出していただく。例えば、川内から若木のJAまでのところでいいということであれば、多分利用者の負担は、そういう油分の負担はなくして行けますので、それはすみません、一定ちょっと上

限を加えた上です。今、国土交通省の規制緩和のおかげで大体どこにでも行けるようにはなっているようですので、この部分の制度設計も含めて話を進めていこうというふうに思っています。

ワンマンバスからみんなのバスへ、そしてさらに子どもたちへのバスへということで、なるほど、先ほどの御質問を聞いてそうだなと思ったのは、これは恐らくみんなのバスというのが定着するとなると、じゃあ子どもたちの登下校ですよ、使いたいという声は必ず上がってくると思うんです。出てくると思うんですよ。そういうことで、ぜひその将来的な整備、まず御高齢者の、あるいは障がいをお持ちの方のみんなのバスというふうにしますけれども、将来的な話として多分ホップ・ステップ・ジャンプということになっていく。ワンマンバスから、みんなのバスから、子どもたちのバスというふうにして、あすへつなぐバスをやっていききたいと、このように思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

みんなのバスというのは本当に待ち望んでいます。市長がきのう言われてから、私この通告は答弁が出る前にやっているんですけども、福祉のバス、そして子どもたちのバス、これは地域の人たちがおじいちゃんおばあちゃんが元気なときは送って行けるわけですね、子どもたちを、孫を。ところが、おじいちゃんおばあちゃんがもう運転できないといたら、お父さんかお母さんが仕事を休んで送っていかなくちゃいけない。地域はやっぱりこういうのを望んでいます。ぜひ実現していただきたいと思います。

では、福祉の最後のほうです。

こういう話を聞きます。「市長がそのままいったら、医療費が上がるんじゃないか」と、そういう声を聞きました。先日、議会報告を配っているときに病院の話になりました、新武雄病院。私、去年入院していましたから、「医療費どうだった」と、こがんこがんやったですよと、「でも、医療の上がっちゃなかと」、「医療の上がっては私聞いたことなかですよ」と、「でも、そういう話よ」と、本当にそうなのか。どうなんだろうというのはやっぱり聞かれるわけですね。きちっとここでそれを説明していただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

これは私今一番言われていることなんですね。実は「樋渡市長が続けば、医療費が上がる」ということを言われて、本当に困っています。本当にそんなことがあるのかなというぐ

らいに実はさまざまな方からこれは言われております。

冷静に御説明いたしますと、医療費というのは診療ごとに国が定める基準によって決まります。したがって、同じ病気、例えば風邪なら風邪、どこで治しても全国どこの病院にかかっても医療費は同じであります。宮本議員よろしいでしょうか。一緒であります。そして、もし法外な値を取るということであれば、後で第三者機関からこれはおかしいということで非常に医療法に伴うクレームがきます。したがって、医療機関はどこでも一定の枠はあるかもしれませんが、その枠の範囲内で医療費というのは算定をされます。ですので、なぜ私が市長を続けさせてもらったら医療費が上がるのか、皆目——私もいろんなところでこれを聞きますので、ちょっとよくわかりませんが、医療内容が同じであれば、医療費そのものが高くなることはありません。

ただ、例えば新武雄病院、今の市民病院なんですけれども、これは平均すると高いというのは事実です。というのは、例えば脳外科を行っているんですね、脳外科を行っている。昔の市民病院はなかなかそういう手術ができていないんですね。ですので、脳外科を行うということになると、平均単価からするとそれは高くなります。しかし、例えば同じことを行っている佐賀大学の医学部や好生館等の病院でやっている、それはやっぱり安いんですね。ですので、それを十把一からげにして医療費の云々ということについては、ある意味これは申しわけない言い方になるかもしれませんが、私としては誹謗中傷の1つのたぐいだというふうに思っておりますので、きちんといろんな場で説明をしてまいりたいと、このように思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

福祉の向上、全般的に福祉の向上というのはいろんな意味を含みます。市民の福祉の向上を願うのが市役所であり、我々議会の務めでもあります。我々議員は是々非々でやってきております。例えば先ほど話がありました、どこかの例で今まで与党だけしか説明していない、予算説明していないと。武雄市役所は、全部我々議員は公平にレクチャーを受けておりますし、いろんな面でも公平だと思っております。こういうふうに、我々議会、そして市民が1つになるというのが一番、今後の福祉の向上につながると思います。我々議会は是々非々でいっていると思いますが、何か違うような話が先ほど出ましたけれども、我々自身は是々非々で、例えば医療はこれが必要だからこっちが賛成、そう思わない方は反対、これはもう仕方がないことです。ぜひ、これからも我々議会、そして執行部も公平にやっていただきたいと思っておりますし、我々議会のことはよくわかっておりますけれども、執行部のほうもきちんと公平にやっているならやっているというのを市民にPRしていただきたい。その辺の

ところを最後にお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

先ほどの牟田議員の前の議員のお言葉には非常に残念に思いました。と申し上げますのも、例えば予算の説明であるとか事業の説明は、それは与野党にかかわらず、私ども事務的にきちんと説明をさせていただいています。私は一度たりとして与党会派の皆様方に説明に上がったことはありません。ですので、これはその場面で予算とか、あるいは事業で政治的なしんしゃくが加わるといけないと、またワンマンと言われかねませんので、これは各担当の冷静な分析のもと、皆様方に説明に上がっているわけですね。そういう意味では、機会はちゃんと保全をしています。

その中で、例えば市民病院の民間移譲の問題で今思い出したんですけれども、私は議員の皆様方の全員とは言いませぬけれども、今、野党に属されていると思われる議員のところまで、家に行ったことがあります。小柳議員ありますよね、あります。小柳議員、石橋議員のところにも私参りました。わざわざ時間をとっていただいて説明をしました。そういうことで私は本当にこれが最重要事項だと思ったことに関しては、もう自分の身をなげうってでも、やはり議会は議決機関でありますので、それは説明に参ります。

その中で非常に残念なのは、人間ですのでいろんなおつき合いが議員さんたちもあります。例えば、これは心理学者のユングが言ったことで、人の心の中というのは、ある意味鏡であるということを知ったことがあります。1つの例を出して申し上げますと、私のところに、頻度はありますけれども、さまざまな議員の方がいらっしゃいます。私を携帯でつかまえていただくときもありますし、私の自宅までわざわざ足を運ばれる方々もいらっしゃいます。私が議員の御自宅まで、もう本当に忙しい方ですので行く場合もあります。それで、武雄市をよくするためにこういう政策があるんじゃないか、それも私も若輩者で、がとない部分がありますので、「いや、これ市長が言っていること違うばい」ということでアドバイスを賜ることも多々あります。そういう意味で先ほど御指摘がありましたけれども、私一度も、例えば前田議員から私はそういう訪問も受けていないんですね。ですので、そういうことを、それだからといって私が与野党を分けている、あくまでも議会というのは是々非々の場だと思っています。ですので、与党会派とはいえ、さまざまな苦言を呈されることもありますし、修正を迫られることがあります。それが議会活動と我々の執行機関の関係だと思っておりますので、私がそういう故意に色分けをしてどうこうではなくて、それは政策ごとにそういうふうに行っているということだけは、ぜひきょう多くの市民の皆様方もごらんになられていますので、御理解をしていただければありがたいと、このように思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

○25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

議会と議員はぜひ公平に、そしてこういうふうに思われるのもやっぱりそういうふうな何かがあったかもしれませんけれども、ぜひ公平に、そして我々議員も一生懸命頑張って市民の福祉の向上を目指したいと思い、私の質問を終わらせていただきます。